

平成17年9月16日

各位

所在地 札幌市白石区本通21丁目南1番10号
会社名 株式会社 ポスフル
代表者名 代表取締役社長 須貝 清 助
(コード番号 7512 東証一部・札証)
問合わせ先 取締役管理部長 山 本 宏 之
T E L 011-865-4120

平成18年2月期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成17年7月12日に公表した平成18年2月期（平成17年3月1日～平成18年2月28日）の業績予想を下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 平成18年2月期中間連結業績予想数値の修正（平成17年3月1日～平成17年8月31日）

(単位：百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	59,100	400	390
今回修正予想 (B)	56,300	△269	1
増減額 (B-A)	△2,800	△669	△389
増減率 (%)	△4.7	-	△99.7
(ご参考) 前年同期実績	56,577	△55	41

2. 平成18年2月期中間業績予想数値の修正（平成17年3月1日～平成17年8月31日）

(単位：百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	59,100	400	390
今回修正予想 (B)	56,300	△280	10
増減額 (B-A)	△2,800	△680	△380
増減率 (%)	△4.7	-	△97.4
(ご参考) 前年同期実績	56,577	21	88

3. 平成18年2月期通期連結業績予想数値の修正（平成17年3月1日～平成18年2月28日）

(単位：百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	118,300	1,000	400
今回修正予想 (B)	115,500	331	900
増減額 (B-A)	△2,800	△669	500
増減率 (%)	△2.4	△66.9	125.0
(ご参考) 前年同期実績	117,178	△121	△203

4. 平成18年2月期通期業績予想数値の修正（平成17年3月1日～平成18年2月28日）

（単位：百万円、％）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	118,300	1,000	400
今回修正予想（B）	115,500	320	910
増減額（B－A）	△2,800	△680	510
増減率（％）	△2.4	△68.0	127.5
（ご参考）前年同期実績	117,178	26	△95

5. 連結業績予想数値修正の理由

当中間期におきましては消費環境が改善されない中、競合激化とともに前半の天候不順、後半の猛暑などへの対応が衣料品などを中心に不十分であったこともあり厳しく推移し、売上高は563億円でありました。これは前年に対し0.4％の減少に止まりましたが、前回発表予想（平成17年7月12日）と比較して28億円（△4.7％）減少する見通しであります。

業種別には衣料品部門が前年に対して97.8％、住生活部門102.6％、食品部門99.6％であり、生鮮食品と住生活の家庭日用雑貨などが伸長いたしました。見通しに対しては衣料品部門で94.0％、住生活部門で97.0％、食品部門で95.0％でありました。

売上総利益につきましては利益率の改善はあったものの、見通しに対して9億円弱減少いたしました。これに対し、営業収入の増加、経費の削減に努力をいたしましたが2億円強のカバーにとどまりました。その結果、経常利益は△2億69百万円の計上を余儀なくされましたが、特別利益（民事再生会社小樽ヒルトン株式会社に対する貸付債権の回収益5億57百万円）等により、中間純利益1百万円となる見込みであります。

通期見通しにつきましては、下期を当初公表の数値確保に努力をしております。その結果、売上高は1,155億円、経常利益は3億31百万円ありますが、当期純利益につきましては下記に記載の特別利益の発生予定により9億円の計上を見込んでおります。

平成17年度は「内実強化」を図る年度と位置づけ、店舗の活性化、営業力・商品力の強化、仕入原価の低減も含めた経費削減を目指してスタートいたしました。この内実強化の一環としての店舗のリニューアルは、余市店を9月に行い、千歳店・北見店を11月中に行うこととしており、これも売上に貢献すると考えております。また、イオングループのメリット追求の一環として、イオン株式会社が設置した「イオン北海道RDCセンター」の活用が7月下旬からスタートしました。これはタイムリーな品揃えの改善とともに、取引先との相互の経費効率改善、店舗における入荷からの仕事の仕方の改善につながると考えられます。

その他当初より進めてきた内実強化の政策について、徐々にではありますが効果が見えてきております。下期につきましてはより一層の浸透・徹底を図り、目標達成に努力してまいります。

6. 特別利益の発生予定について

（1）発生年月日

平成17年11月予定

（2）特別利益の内容

当社が所有する、マイカル小樽エネルギー供給株式会社に対する貸付債権の回収が実現できる見込みであり、帳簿価格との差額約10億円を、特別利益として下期に計上する予定です。したがって、これを今回の通期業績予想に織り込んでおります。

※業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績はこれらの予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上